

生き抜けモンスターサバイバル！

興梠 すすむし

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここに記されましたるはひよんなことから死んだ一人の人間がモンスターへと生まれ変わり強敵だらけの大自然で生き抜く物語でございます。

目次

第1話	1
2話 郷に入っては郷に従おう（適応しよう）	5

第1話

……。

(…………どこなんだろ)

辺りは暗く、何故か目も開けられないし声も出ない。

心做こころなしか水気が感じられる。

身体は……動くようだ。

軽く動かしてみるとすぐに何かにぶつかる。

案外狭い場所に閉じ込められているらしい。

しかし、強く押ししてみるとピキリと音が聞こえる。

(これは割れるのでは?)

老朽化が酷いのかなんなのか、自分を閉じ込めているものはとても脆もろかった。

ところがどっこい、なかなか壊れない。

というか水気を感じるどころか水で満たされていた。

焦りを感じて押しして押しして押しまくり、ついに壁を打ち破った。

ケホケホと水を吐き出そうと咳き込んだが、喉から出てきた水がやけに口に残る。

というか喉から出てきてはいるが吐き出された水が舌の上に乗る。

これではまるで口が長いようではないか。

え? いや違う。そうじゃない。誰が面長馬面だ。ぶつ殺すぞ。違えてってんだろ!

「キイーツー!」

驚くべきことに、信じられないことに自分の口から出たのは掠かすれた獣声だった。

チラリと、ぼやける目で自分の出てきたものを見た。

「キュア (卵やんけ)」

そう。下は丸みを帯び、上は少し楕円形に近いカルシウムで出来て
そんな褐色の混じった白いそれは卵だった。

恐る恐る体を見下ろす。

するとなんとということでしょう。

そこには青い鱗に包まれた恐竜ボディが。

余裕で気絶した。

.....

起きた。みんなおはよう。

やあ私の兄弟（仮）達よ。

じゃれつくのはいいがかじるのはやめてくれ。

気絶してから数週間、私はランポスへと生まれ変わったらしいことが分かった。

ここでひとつ言わせて欲しい。

人生はクソであるとおツ!!!

なんでこんな畜生に生まれ変わらなきゃならんのだと。

畜生は畜生でもよりにもよってなぜ踏み台確定の畜生なのかと。

日本で悠々自適にぬくぬくと生きてきた私だ。

ハンターの最初の肉食竜討伐クエストでぶち殺されるのは目に見えている。

やだ死にたくない。

何がなんでも生き残って、ご都合主義をも味方につけてランポスとは違う生き物に進化することを目指す。

ハンターを返り討ちにできるまでは必ず生き残る。

そのために今、必要なこと。

それは……

にーげるんだよー!

狩りには出かけずパラサイトを決め込む。

安全圏で体が完成するのを待つのだ。

おすねかじり虫?

上等じゃボケェ!!

貧弱虚弱脆弱ボディでハンターに殺されろってか?!

冗談じゃねえわ!!!
カッコよく生きれなくていい。
とにかく泥水を啜ってでも……いや出来れば啜りたくはないけども。

絶対に生き抜く。

これは決定事項だ。

……。

と、思っていた時期が私にもありました。

なにあいつくそ怖いんだけど。

私に何があったか？

聞きたいか？

なら教えてやろう。

兄弟が狩りに出た時、巢で寝転がってたんだよ。

1回起きてから行ってらーと見送り2度寝かましてたんだ。

ウトウトしかけた瞬間に鼻先にでっかい爪が刺さってな。

目を開けたらすっげえ至近距離でドスランプスがガン見してんの。

吠えかかられた時は死を覚悟したね！

で、まあスタコラサッサと狩りに出たのはいいけどさ。

私が自分よりでかい竜に仲間がいたとしても挑めると思うか？

諸君らの予想の通りNOである。

ドスランプスが見張っているためサボれない。

けど怖い。

チラっ

「ギィアーーーーーッ!!」

怖っ!

なんだよあのパワハラ上司……。

帰れよ。帰れよお……!

……。

あれ、急に暗くね？

そして風強くね？

そして何かプレッシャーすごくね？

上を見ると、火球が飛んできた。

「ギユウアア！（あつづうい!!）キユウウ……（冗談じゃねえぞ……）」
ねえ、痛くて動けないんだけど。

おい！兄弟ども！

ギヤアギヤア吠えてないで助けてよ！

そしてパワハラ上司！

今こそお前の本領発揮する所だろ！

偉そうにしてんだからこんな時くらい積極性持てよ！

あ！おい！何してんだこら!!

「撤収！撤収うー！」じゃねえんだよ!!

おいこら逃げんなカスうううううううう!!?

……。

ひいひい!!?

やめろオ！来るんじゃねえ！

私は貴様らのオモチャとちゃうんやぞ!!

散れ!! 雛火竜ども!!

あつづうい!!

やめろ！火であぶるのはマジにやめろ!!

ぶっ殺すぞ!! 出来んけど!!

くそお!!

世の中理不尽だああああああああああああああああああああ

ああああああ
!!!!!!

2話 郷に入つては郷に従おう（適応しよう）

かの憎たらしき雌火竜に搔かつ攫さらわれてから、はや半年。体に変化が出てきてマジ卍。

ちよつと言つてみたかっただけなんだ。

冷たい目で見ないで！

マジ卍ってどういう意味か知ってる人いる？

私知らないんだ。

教えてギャルい人。

閑話休題。

最近子レウス、子レイアに火であぶられても熱いと感じなくなってきた。

まあどんどん成長していくコイツらは顎の力も上がって甘噛みが致命傷になりかねなくなってきたからどっちにしる危険なのは変わらんけども。それはいい。

なんか体色が変わってるんだよね！

青かった鱗が焼かれて焦げてしばらくしてから生え変わった。赤い鱗に。

ギアノスも元はと言えばランポスが極地に適応した生き物らしいし、それなりに適応出来るのでは？と期待はしてたよ。

でもな。

目立つやんけ!?

この地域にはイーオスがいないから赤い小型竜なんて目立つに決まっとるやんけ!?

見た目くらい維持してくれても良くない!?

ねえマイボデイ!?

お前何を思つて緑いっぱい青空広がるこの開けた地域でこんな目立つ色に変わってくれちゃったわけ!?

これからどう生きてけつてんだコンチキショウ!!

……まあオ夫夫婦がここから出してくれるとも思えないからこんなに文句言つてもどうなの？つとは思うけどね？

お、起きたかチビ共。
遊ぶか？私で。

いいよ来いよやってやるよかかってこいやあ!!
……。

ついに……！ついにやったぞ……！

ヒヤッハー！ざまあみさらせチビ共お！

いつまでも火で怯むと思うなよ!?

オラオラどおしたあ!?

来てみるオラア！

「グアアアアアアアアアアアアアアアアツ——!!!」

っスイマセンっしたああああああああああ!!!

いや、あのレウスさん……??

ちが、違うんスよ……??

積年の恨みはらしたったぜヒヤッハーとか思っけてないんスよ……。

はい……。

確かにちよつとスカツとはしたけどそれはこう難題に打ち勝つて
やったぜって言う感じのやつd——

「グルルルル……」

——ごめんなさい。

え？なんでこつち来るんですか？

臭いを嗅ぐんですか？

ひよおう!?!なんで舐めるんですか!?

お、オイシクナイアルヨおおおおお!?

……。

追い出された。

え？なんなん？アホなんアイツ。

いやええけども。

何がどうなったかよく分からん。

……うむ！まあよかろう！

いえーい！自由だー！

ビバ！フリーダム！イエス！フリーダム！

おういえー！
わーいわーい！

自由だーい！

ドンツ!!バスン!!ガチャコン。

ハンターだああああああああああああい!?

そうだったよコンチクショウ!!

おのれマイボデイ余計な着色しやがって!?

クソオ!ぶっ殺してやる!!

レアモンスターだ!新種かな?何かボーナス出るかな?つて顔してんじやねえぞオルアアアアアアアアアアン!?

.....

死ぬかと思いましたまる
いやマジで。

あのハンターめこちとら伊達にチビ火竜共にオモチャにされてねえんだよざまあみろ!!

新人ガンナーのくせしてめちやくちやエイムいいのなんなの.....

いやいや。あそこで殺れて良かったね。

絶対将来有望株だったわ。

ん?人を殺してなんとも思わないのかった?

私を殺そうとしてたやつを殺して何が悪いのか。

あつちは言うなれば殺竜鬼だよ?

正当防衛と言うやつさ。

これと言ってどう思ったということもないね。

.....私ってここまでドライだったっけ?

まあ.....一旦寝るところを探して移動しよう。

.....

一方その頃、男は起き上がっていた。

「あつぶなかったあ.....!」

先輩に秘薬貰ってなかったら死んでた。

あの赤いランポス強かったなあ.....

トサカとかちよつと火みたいでかつこよかったなあ.....

目なんかちよつと青っぽくて理知的で……。

綺麗だったなあ……。

あのモンスターが女の子だったらなあ……。

男は変態だった。

変態と言うには語弊があるが、趣味嗜好が常人のそれとはかけ離れていた。

いわゆる人外萌えである。

人間、何かが秀でているとどこかしら人とは違った部分があるのは鉄則なのだろうか。

そんな彼、ロイジエの夢。

それは――

「あの子は骨格的にメスだし突然変異してる途中ならまだワンチャンある！人型の女の子になってくれる望みが！そしたら――」
モンスターと籍を入れることである。

「あの子と結婚するぞ――」